

国語科における学校間の接続に関する調査研究

研究テーマ

小中高の接続を意識した国語科学習指導

～言語事項の定着を中心に～

各種学習状況調査で課題となっている言語事項に調査研究を絞り、小中高の系統性を意識し、言語事項の定着を図るために研究テーマを設定した。

〈小学校〉「比喩を意識した学習指導」

〈中学校〉「文法指導の定着を目指す年間指導計画」

〈高等学校〉「中学校の指導との接続を意識した文法指導（古典）」

1 調査研究の視点

（1）国語科の現状

- ・小中学校では言語事項の定着が十分とはいえない。
- ・高等学校では、文法指導の方法や、文法を学ぶ意義の意識化を促す指導法についての研究が求められる。

（2）国語科の課題

- ・系統性を踏まえた指導、学校間の接続を意識した言語事項について、校種ごとにそれぞれの課題意識をもとに調査研究を行う。小学校では意識化、中学校では定着、高等学校では活用を課題として設定する。接続という視点からは、小中では言語活動を支える言語事項、中高では特に文法事項について意識し、研究を進める。

2 研究の取組

〈小学校〉「比喩を意識した学習指導」

- ・本年度は、平成24年度全国学力・学習状況調査における課題の一つである「比喩」を取り上げ、中学校への橋渡しを意識した学習指導案を検討する。

〈中学校〉「文法指導の定着を目指す年間指導計画」

- ・本年度は、既習の文法用語を、実際の授業の中で、系統立て、繰り返し学習することで定着を図る年間指導計画を作成する。

〈高等学校〉「中学校との接続を意識した文法指導（古典）」

- ・本年度は、古典を初めて学習する高校1年生を対象とし、中学校での既習事項を生かした、読みを深めるための文法指導についてその検討を行う。

3 成果と課題

（1）成果

平成24年度国語科は全5回にわたり部会をもち、校種ごとの協議、異校種を交えての協議を通して、系統性に対して意識を高め、必要性を再認識することができた。また、そうすることで自分の校種に対する理解を深めることもできた。

小学校では言語事項を読解に生かす視点をもつことができた。中学校では年間指導計画を作成することで、継続的な取組を促し、学習事項の定着を図るための資料を提示することができた。高等学校では、文法学習の有用性を実感させ、読解と結びついた文法学習を示すことができた。

（2）課題

平成25年度においては授業研究を行うなどしながら、これらの成果を実際に検証していくことが課題である。今年度の成果を再検討し、それを広く学校現場に投げかけていきたい。

【国語】

1 はじめに

新学習指導要領が平成23年度には小学校、平成24年度には中学校、平成25年度には高等学校で全面実施の運びとなった。高等学校学習指導要領解説3 国語科改訂の要点には(6) 学習の過程と系統性に配慮した内容の改善として以下のように記されている。

今回の改訂で、小学校及び中学校では、学習の過程が分かるよう内容を構成するとともに、各学年段階において重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図っている。そこで、中学校までの指導との円滑な接続を図り、高等学校において発展的に指導できるよう、例えば、「国語総合」の「B書くこと」では、取材、構成、記述、推敲、交流という、書く過程に沿った指導事項を示すなど、**学習の過程や系統性に配慮して内容を改善している。**

なお、学習の過程を明確にすることは、総則の第5款の5の(5)に示している「各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。」と、学習の系統性は、総則の第5款の3の(3)に示している「学校や生徒の実態等に応じ、必要がある場合には、例えば次のような工夫を行い、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようにすること。」と関連している。

小中高の系統性を図る指導が求められていることは明白である。また、ベネッセ VIEW21（2011年6月）では、「中高接続」をキーワードにした特集が組まれている。そこでは、高校版読者モニターへのアンケート結果として、「中高接続や中高連携に関して指導上で課題を感じる場面はありますか？」の問いに対して85,5%が「はい」と答えている、とある。そして、「中学校までの学習歴を踏まえ、中高での教科指導の段差をなくす」ことをポイントとしてあげている。小中接続においてもベネッセ VIEW21 小学版で円滑な小中接続の必要性が説かれ、実践のヒントが示されている。

これらのことから、小中高それぞれの学習状況を把握し、教科指導の段差をなくしていくことは重要な課題であると思われる。そこで、国語科では調査研究委員の問題意識をもとに小中高をつなぐ課題を探り、円滑な接続への橋渡しとなるような教材づくりを目指し、研究に取り組むこととした。

2 調査研究の視点

(1) 国語科の現状

平成23年度、埼玉県学習状況調査の結果をみると、小学校では、特に、主語・述語の関係についての理解を見る問題で正答率が31,5%と低い結果が出ている。中学校においても、接続語を用いて文を書き直す問題の正答率が40,9%という結果が出ている。文章を読む基礎となるべき言語事項が十分に定着していない現状がうかがえる。また、文部科学省による全国学力・学習状況調査において、比喩に関する力や語彙力の不足があげられている。「比喩」という用語は知っていても実際にテストや日常生活で使えないという現状がある。

調査研究委員の中学校における授業時の文法に関する小テスト（既習事項の定着を把握するテスト）によると、

風がどうと ①吹いてきて、

において、①の主語を答える問題の正答率は 70%にとどまり、

草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごんごんと ②鳴りました。

において、②鳴りました。の主語をすべて答えるという問題の正答率は 42,5%にとどまったという。他の問題に関しても同様の結果がみられた。主語・述語の関係等において定着が不十分である様子がみてとれる。文法用語としての言葉は知っていても使えない生徒もあり、文法指導が体系化されていない現状があると考ええる。言語事項の取り立て指導による学習指導だけでなく、文章を読んだり書いたりさせる際に、繰り返し指導し、言語事項の定着を図る必要があるだろう。

調査研究委員の高等学校によると第 1 学年の生徒が【国語における苦手な事項】として選んだ項目の割合について、「古文の文法」が 25.8%、「古文の現代語訳」が 24,0%と突出していた。第 2 学年において苦手な項目として文法を選んだ生徒はさらに増加し、42,0%に及んだ。このことにより現状の問題点として「1 高校 1 年生が、文語文法の指導を受ける以前に既に苦手意識を持っていること。 2 その苦手意識を 1 年間の指導において、減少させるよりも増幅させてしまっていること。」があげられる。生徒の文法指導に対する苦手意識の要因を探るとともに、文法指導の方法、文法を学ぶ意義の意識化を促す指導法について研究する必要がある。

こうした現状をみるに、言語活動の基本となっていく言葉の理解、文法の意識が国語科の指導において薄いように思われる。児童・生徒たちに「適切に表現し、正確に理解する能力を身につけさせる」には、言語事項の定着、具体的には文法指導の見直しを考えていく必要がある。

(2) 国語科の課題

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について、学習指導要領にはそれぞれの校種で以下のように示されている。

小学校

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1)「A 話すこと・聞くこと」,「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して,次の事項について指導する。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(か)文の中における主語と述語との関係に注意すること。〔第 1 学年及び 2 学年〕

(き)修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

(ク)指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し,使うこと。
〔第 3 学年及び 4 学年〕

(わ)文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

(け)比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。〔第 5 学年及び 6 学年〕

中学校

- (1) 「A 話すこと・聞くこと」, 「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して, 次の事項について指導する。
- イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
- (エ) 単語の類別について理解し, 指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。
- (オ) 比喻や反復などの表現の技法について理解すること。 [第1学年]
- (ウ) 文の中の文の成分の順序や照応, 文の構成などについて考えること。
- (エ) 単語の活用について理解し, 助詞や助動詞などの働きに注意すること。 [第2学年]

高等学校

- (1) 「A 話すこと・聞くこと」, 「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して, 次の事項について指導する。
- ア 伝統的な言語文化に関する事項
- (イ) 文語のきまり, 訓読のきまりなどを理解すること。

一方、内容の取扱い（5）には次のように記されている。

- （5）内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、次の事項に配慮するものとする。
- ア 中学校の指導の上に立って、内容の A, B, 及び C の指導の中で深めること。
- イ (1)のアの(イ)については、読むことの指導に即して行うこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について、小中高と系統的な指導が求められていることは明白である。そしてこれらは、『A 話すこと・聞くこと』, 『B 書くこと』及び『C 読むこと』の指導を通して, 指導するとある。国語の特質に関する事項をとりたてて指導するのではなく、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの指導の中で考える必要があるだろう。また、言葉の理解、文法の意識は、言語活動を行う上では不可欠であると思われる。(1)で述べた現状とあわせて考えると以下のような課題が見えてくるように思う。

小学校では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導を通して段階的に文法指導を行うことが求められている。しかし、実際には、文法学習として意識し、系統立てた学習指導が行われていない傾向にある。言語事項としての定着は十分とは言えないだろう。語彙の定着も含め、文法学習の意識化を課題としたい。

中学校では2学年までに文法指導の基礎となる指導が行われ、国語の学習に生かしていくことが求められている。しかし、実際には、かなりの量の文法用語を一度に扱わざるをえず、文法学習は定着していると言い難い。文法事項を繰り返し徹底して指導する教員側の意識も高いとはいえず、文法を定着させ、さらにそれを生かした国語の授業づくりは難しいというのが現状である。文法指導にかかる配当時間の少なさも影響している。小学校での学習を受け、継続的な指導のもと、定着を図ることが課題となろう。単元のみで終わるのではなく、継続的に取り組め

るよう、年間指導計画を作成し、提示していくことを課題としたい。

高等学校における文法指導は読むことの指導に即して行うと示されているが、実際はこうした指導が十分行われているとは言い難い。高等学校の授業において、文法指導が、文法の暗記指導に終始していることはないか。また、読むための文法という文法を学ぶ意義について生徒が十分理解できているか。高等学校においては中学校の学習状況を踏まえ、読むことの指導に即した、読むための文法指導を行っていくことが課題であると思われる。また、適切な読解につなげるための論理的な思考力を高めるための文法指導を課題としたい。

小学校での意識化、中学校での定着、高等学校での活用と、系統性を踏まえた指導により、学校間の接続を意識し、段差をなくした指導を考えていきたい。以上のことをふまえ、研究テーマを設定した。

3 研究テーマ

小中高の接続を意識した国語科学習指導

～言語事項の定着を中心に～

国語科は言語活動を行うにあたり全教科の基幹となる教科である。その国語科において文法指導の意義を見直すことは意義深いことと考える。また、いまだ検討される機会の少なかった文法指導について研究し、新たな光をあてることは、国語科指導の大きな可能性を示すことになるであろう。小中高の系統性を考えつつ、小中の接続では言語活動を支える言語事項、中高の接続では特に文法事項について調査研究していくこととする。

4 研究の取組

【校種別概要】

〈小学校〉「比喩を意識した学習指導」

平成24年度全国学力・学習状況調査における課題の一つである「比喩」を取り上げ、中学校への橋渡しを意識した学習指導案を検討する。

〈中学校〉「文法指導の定着を目指す年間指導計画」

今年度は、既習の文法用語を、実際の授業の中で、系統立て、繰り返し学習することで定着を図る年間指導計画を作成する。

〈高等学校〉「中学校の指導との接続を意識した文法指導（古典）」

特に今年度は、古典を初めて学習する高校1年生を対象とし、中学校での既習事項を生かした、読みを深めるための文法指導についてその検討を行う。

(1) 小学校 「比喩を意識した学習指導」

①テーマ設定の理由

ア 現状

小学校では、はじめて文字が読めたり書けたりするようになる1年生から、自分の思いを表現するようになる6年生まで、国語科における学習内容は多岐にわたっている。教材を通して、系統立てて学習を進めていく必要がある。

ところが、現状は、指導事項の多さから、目の前の教材に振り回され、生徒の実態や付きたい力を把握せず、既習事項の定着を疎かにしてしまう場合がある。

平成24年度全国学力・学習状況調査の結果、「書くこと」では全国平均を0.5ポイント、言語事項では全国平均を0.8ポイント下回る結果が出ている。自分の考えを具体的に書くことや読み取るための言語事項の習得に課題が見られる。

言語活動の支えとなる基礎的・基本的な知識・技能が定着しないと、伝え合う力が不足し、国語に対する関心・意欲が薄れ、思考力・判断力・表現力を伴う学習が困難になる。そこで、言語感覚を豊かにし、書くための言葉への関心を高め、表現の技法についての理解が大切になってくる。以上のことから、優れた文章に出会い、語彙を豊かにし、言語事項を押さえた学習を定着させるために本テーマを設定した。

イ 本研究のねらい

中学校では、文法用語が多く出てくるが、内容は小学校で学んできているものもある。しかし、中学校へ進学すると学んできていたはずのことが生かされていないという声を聞く。小学校では、優れた表現を味わうことに主眼が置かれ、文法指導はあまり意識して指導する場面が少ないと思われる。

実際に、小学校で「比喩」を学んでいるものの、中学校で実施した学習状況調査において、定着率が低かった。語彙として学んでいるものの、活用の場面に課題が残る実例である。そこで、小学校では、「比喩を意識した学習指導」研究することにした。

②学習指導案の作成

ア 教材名「やまなし」(第6学年)

本教材は、宮澤賢治による作品であり、独特の比喩表現が多く出てくる。

学習指導要領 国語 第5学年および第6学年「C 読むこと」の指導事項として、「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」、また、[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]において「カ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと」「ケ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと」とある。本単元の目標は「場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめること」であり、本教材で、「比喩」について学ぶことは、中学校への学習の橋渡しとなることであろう。

イ 指導例(詳細は、資料の学習指導案参照)

学習課題 「心に残った言葉や文の秘密を探ろう。」

学習内容 児童から出された「心に残った言葉や文」をグループで「直喩・暗喩」「擬態語・擬声語」に分類する活動を通して、日本語の「比喩」について理解を深める。

（２）中学校 「文法指導の定着を目指す年間指導計画」

① テーマ設定の理由

ア 現状

文法は、文章を適切に表現し、正確に理解するために必要なものである。中学校では、「単語の活用」や「助詞・助動詞の働き」といった身に付けるべき文法の基礎知識が、第１・２学年に集中して配列されている。小学校で、既習の用語もあるが、より体系化され、複雑なものとなり、定着が難しい学習である。

また、年間指導計画において、文法の指導に担当されている時間は、年間を通して６時間と短く、さらに、学期に１度、担当されているが、せっかく知識を身につけても、次の文法の学習までに時間があくため、既習事項を忘れてしまう生徒が多い。高等学校の学習では、文語文法で躓く生徒が多いようである。高等学校で本格的に古典を学ぶにあたり、中学校までの口語文法の確実な定着は外せないと思われる。

イ 本研究のねらい

文法学習の定着のためには、年間を通して文法を学ばせることが必要である。また、知識を注入するだけでなく、文学的文章や説明的文章を学習する中で、語の効果的な使い方を理解し、実際に、自分の考えを表現する中で活用されることが望ましい。

そうすることで、正確に理解し、適切に表現する手だてとして、文法学習は日常生活に欠かせない手だてとなる。

そこで、中学校では、文法学習の定着を図るとともに、文法学習の意義に気付き、高等学校への橋渡しとなるように年間指導計画を作成した。

② 文法指導の定着を目指す年間指導計画の作成

ア 年間指導計画のねらい

第１学年では、小学校での既習事項を繰り返し確認しながら、新しい知識を積み上げ、第２学年では、１年生の知識を繰り返し確認しながら、新しい知識を積み上げることとした。第３学年では、１・２年生の学習の定着を確認しながら、高等学校への橋渡しとして、文法を学ぶ意義を意識しながら、年間指導計画を作成した。

イ 指導例（次ページ以降参照）

中学校
光村図書 1年

月	単元	教材	時数
4	言葉に出会う	言葉に出会うために 野原はうたう 声を届ける／書き留める／ 本と出会う／調べる 練習 情報を正確に聞き取ろう	6 1
5	1 学びをひらく	にじの見える橋	5
		言葉1 話し言葉と書き言葉	2
		季節のしおり 春	—
		友達をみんなに紹介しよう	3
		取材してスピーチで伝える	3
		ダイコンは大きな根？	3
		ちょっと立ち止まって [書く]段落のまとまりを意識して書く	6
		わかりやすく説明しよう	3
		観点を決めて書く	3
		練習 スピーチ名人になろう	1
6	豊かな言葉	漢字1 漢字の組み立てと部首	2
		はじめての詩 詩四編	3
		言葉を集めよう もっと「伝わる」表現を目ざして [書く]推薦文を書こう	2
		文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう →文法①言葉の単位(p218-221)	2
		おいしい読書 読書紹介をする	2
		情報コラム① 本から情報を集める	4
		情報コラム② 新聞の紙面構成の特徴を知ろう	4
		雪とパイナップル 江戸からのメッセージ ——今に生かしたい江戸の知恵	4
		読書案内 季節のしおり 夏	—
		星の花が降るころに 大人になれなかった弟たちに…	5 4
9	3 つながりを読む	言葉2 指示する語句と接続する語句	2
		項目を整理して伝えよう 案内文を作る	4
		シカの「落ち穂拾い」 ——フィールドノートの記録から [書く]図表を添えて日記を書こう	5 [2]
		練習 流れを踏まえて話し合おう	1

〈小学校の復習〉として行う
○主語・述語[参照:小2下p.19.20 小4下p.131]
○修飾語[参照:小3下p.24.25 小4下p.131]
〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.26 l.1~7
・「雨」「青空」「少年」が主語。l.6は主語がない文。
同箇所述語、修飾語と合わせて確認。
・特に、**主語と述語の見つけ方**は徹底。

〈小学校の復習〉として行う
○こそあど言葉[参照:小4下p.131]
○文と文をつなぐ言葉[参照:小4下p.60~63]
〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.36
・スピーチ原稿の際に使用する言葉を取り上げて、
確認。「つなぐ言葉」は小4下に詳しく掲載あり。
・「こそあど言葉」→「**指示語**」という学習用語で認
識

〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.50
・説明文を書く際や生徒作品で、「指示語」の種類
(p.111)と、「接続語」の種類(p.112.113)を学習。
その際、前単元の「大根は大きな根?」「ちょっと
立ち止まって」の本文を例文として使う。

〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.68.69
・読書紹介で物語を引用した例を挙げ、p.66の紹
介と同じように行い、「文節」は区切り方まで学習。
「単語」は学習用語として触れるのみ。

〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.96
・会話文から「独立語」「独立の関係」を学習。
p.224参照

〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.102
・本文から、修飾・被修飾の関係と、連用修飾
語・連体修飾語を学習。p.223参照

〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.118
・冒頭の1段落で「並立の関係」を学習。
p.225参照

小学校の既習事項の復習

新しい用語の定着

文節どうしの関係で

10	4 心にふれる	季節のしおり 秋	—
		音読を楽しもう	2
		いろは歌	
		七夕に思う	
		—語り継がれ、読み継がれてきたもの	4
11	5 論点をとらえる	蓬萊の玉の枝——「竹取物語」	
		今に生きる言葉	2
		練習	2
		故事成語を使って体験文を書こう	
		話題をとらえて話し合おう	
12	5 論点をとらえる	バズセッションをする	5
		文法への扉2	2
		だれが・何を・どうする？ →文法②文の組み立て (p222-226)	
		流水とわたしたちの暮らし	
		[書く]具体例を示して書こう	[2]
1	6 表現を見つめる	調べたことを報告しよう	4
		レポートにまとめる	
		漢字2 漢字の音訓	1
2	6 表現を見つめる	少年の日の思い出	7
		[書く]別の人物の立場で書こう	[2]
		言葉3 さまざまな表現技法	2
3	6 表現を見つめる	感じたことを文章にしよう	4
		鑑賞文を書く	
		文法への扉3	3
3	6 表現を見つめる	単語の性質を見つけよう →文法③単語の分類(p227-230)	
		季節のしおり 冬	—
		言葉を探検する	6
3	6 表現を見つめる	ポスターセッションをする	
		漢字3 漢字の成り立ち	2
		木は旅が好き	3
	文法	①言葉の単位 ②文の組み立て ③単語の分類	
	親漢字にもう	漢字の練習	
		小学校六年生で学習した漢字	
		小学校六年生で学習した漢字一	
		漢字の練習 常用漢字表に追加された漢字	

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.160
・冒頭の1段落で「補助の関係」を学習。
p.225参照

体言止め・倒置・反復・対句・比喩

単語

考える

単語に触れる

光村図書 2年

月	単 元	教 材	時数		
4	1 広がる 学びへ	明日	2	<1年生の復習>として行う ○文の組み立て 中1p.222～226 1.文節どうしの関係 ・登場人物の言動を考えるとときに、「 主述の関係 」を意識。	
		アイスプラネット	5		
		季節のしおり 春	—	<1年生の復習>として行う ○言葉の単位 中1p.218～221 2.言葉の単位 ・文章の構成を工夫するときに、言葉の単位「 段落 」に着目。	
5		枕草子 〔書く〕自分流「枕草子」を書こう	3 〔2〕		<1年生の復習>として行う ○文の組み立て 中1p.222～226 1.文節どうしの関係 ・要点を整理して聞き取るために、言葉の単位「 文 」や 「いつ・どこで・誰が・何を・どうした」という「 主語 」「 述語 」「 修飾語 」に着目。
		説明の仕方を工夫しよう 目的や相手に応じて書く	4		
6		言葉1 類義語・対義語・多義語	2	<1年生の復習>として行う ○文の組み立て 中1p.222～226 1.文節どうしの関係 ・文章の構成を工夫するときに、言葉の単位「 段落 」に着目。 ○文の組み立て 中1p.222～226 1.文節どうしの関係 ・「 接続の関係 」p.41 L.16「ところが」p.42 L.6「では」など 文頭に着目し、段落どうしの関係を確認。	
		練習 要点を整理して聞き取ろう	1		
	2 視点を 定めて	やさしい日本語	5	<1年生の復習>として行う ○言葉の単位 中1p.218～221 2.言葉の単位 ・文章の構成を工夫するときに、言葉の単位「 段落 」に着目。 ○文の組み立て 中1p.222～226 1.文節どうしの関係 ・「 接続の関係 」p.41 L.16「ところが」p.42 L.6「では」など 文頭に着目し、段落どうしの関係を確認。	
		練習 発表資料を工夫しよう	—		
		印象に残る説明をしよう プレゼンテーションをする	5		
	豊かな 言葉	漢字1 熟語の構成	2	<1年生の復習>として行う ○単語の分類 中1p.227～230 ・「 自立語 ・ 付属語 」「 活用の有無 」「 体言 ・ 用言 」「 品詞 」 といった文法用語の復習。2年生の学習「品詞の性質」を 定着。	
		新しい短歌のために 〔書く〕短歌を創作しよう	4 〔1〕		
		短歌十二首	—		
	7	3 技読を 書と え情 報	言葉を選ぼう もっと「伝わる」表現を目指して 〔書く〕小さな物語を作ろう	2	<実際の授業で扱うところ(案)>p.64単語をどう分ける？ ○自立語 中2p.220～223 2.活用しない自立語 ・「書き手の「僕」＝ 代名詞 」「寺院＝ 普通名詞 ・ノートル ダム寺院＝ 固有名詞 」「ねえ＝ 感動詞 」「その＝ 連体詞 」 の品詞の確認。 ・異国の地名や建築物など興味深い名詞が多いため、 「 名詞 」の学習に適した教材。
			文法への扉1 単語をどう分ける？ →文法①自立語(p.220～223)	2	
メディアと上手に付き合うために		気になるあの「人」を探ろう メディアの特性を生かして調べる	—	<実際の授業で扱うところ(案)>p.64単語をどう分ける？ ○自立語 中2p.220～223 1.活用する自立語 ・主人公や父が「どうした。どんなだ。」という人物に関わ る「 動詞 ・ 形容詞 ・ 形容動詞 」に着目することで、人物像 が見えてくるという読み取りの学習。 ・p.95 L.19「気にかかる＝ 自動詞 」「気にかける＝ 他動 詞 」に着目することで、文章の正確な理解。 ・内容の理解に、登場人物の言動に着目することが必 要であり、「 動詞 ・ 形容詞 ・ 形容動詞 」の学習の定着。	
		旅する絵描き ——パリからの手紙	5		
		五重の塔はなぜ倒れないか	—		
		読書案内	—		
		季節のしおり 夏	—		
9	4 きず なを 読む	盆土産	5	<実際の授業で扱うところ(案)>p.64単語をどう分ける？ ○自立語 中2p.220～223 1.活用する自立語 ・主人公や父が「どうした。どんなだ。」という人物に関わ る「 動詞 ・ 形容詞 ・ 形容動詞 」に着目することで、人物像 が見えてくるという読み取りの学習。 ・p.95 L.19「気にかかる＝ 自動詞 」「気にかける＝ 他動 詞 」に着目することで、文章の正確な理解。 ・内容の理解に、登場人物の言動に着目することが必 要であり、「 動詞 ・ 形容詞 ・ 形容動詞 」の学習の定着。	
		字のない葉書	3		
		言葉2 敬語	2		
		気持ちを込めて書こう 手紙を書く	4		
		練習 相手の立場を尊重しよう	1		

—国語10—

一年生の既習事項の復習

自立語の定着

10	5 いにしえの心を訪ねる	季節のしおり 秋	—	〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.64単語をどう分ける？ ○自立語 中2p.220～223 2.活用しない自立語 ・評論のため、筆者の考えを読み取るために「段落」に着目 ・p.125 L.5「しかし＝逆接の接続詞」p.127L14「だから＝順接の接続詞」を手がかりとし、正確に理解。
		君は「最後の晩餐」を知っているか	4	
		音読を楽しもう 平家物語	1	
		扇の的——「平家物語」から	4	
11	5 いにしえの心を訪ねる	仁和寺にある法師 ——「徒然草」から	2	〈1年生の復習〉として行う ○単語の分類 中1p.227～230 2 品詞 ・助詞の省略p.138「北風(が)」p.135 L.5「与一(は)目をふさいで」p.144「仁和寺にある法師(が)」に着目。
		漢詩の風景	3	
		練習 人物の特徴をとらえて論じよう	2	
		話し合って考えを広げよう パネルディスカッションをする	5	
12	6 論理をとらえる	文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 →文法②用言の活用(p.224～229)	2	〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.161走る。走らない。走ろうよ。 ○用言の活用 中2p.224～229 ・説明文を読み取る基礎となる「問いの文」「答えの文」を意識する際に、用言の活用(音便も含む)に触れ、文中で単語が活用していることを認識。 ・p.163 L.9「絶海の孤島の巨像を作ったのは誰か。」 ・p.166 L.3「いったいどうなったのだろうか。」
		モアイは語る——地球の未来 [書く]事実を示して意見を書こう	6 [2]	
		季節のしおり 冬	—	
		立場と根拠を明確にして書こう 意見文を書く	4	
1	7 自分を見つめる	漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字	2	〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.161走る。走らない。走ろうよ。 ○用言の活用 中2p.224～229 ・自分で文章を書くときも、自然と単語を活用させて文を作っていることを意識。 ・2年生のまとめの時期に、3年生、高校へと学習の積み上げの大切さを確認。同時に、文法は、文章を「読むとき」にも「書くとき」にも必要な「手立て」であり、文法学習の意義を確認。
		走れメロス [書く]文章の形式を選び、表現のしかたを工夫して書く	7 [2]	
		文法の扉3 一字違いで大違い →文法③付属語(p.230～236)	3	
		表現のしかたを工夫して書こう 視点を変えて物語を書く	4	
2	7 自分を見つめる	言葉3 方言と共通語	2	〈実際の授業で扱うところ(案)〉p.199一字違いで大違い ○付属語[p.230～236] ・正確でわかりやすい文章を書くために、付属語(助詞や助動詞の活用)について意識させ、3年の学習につなげる。 ・「文集」についても同様。
		漢字3 送り仮名	2	
		身近な人の「物語」を探る インタビューをして文集にまとめよう	6	
		言葉の力	3	
3	7 自分を見つめる			

自立語の定着

用言の活用の定着

付属語の意識

月	単元	教材	時数
4	1	朝焼けの中で	2
		握手	5
		季節のしおり 春	—
5	1 深まる学びへ	説得力のある考えを述べよう	5
		批評文を書く	
		[関連教材]	1
		「批評」の言葉をためる	
6	2 視点多様なら	言葉1 和語・漢語・外来語	1
		練習 評価しながら聞こう	1
		月の起源を探る	4
		練習 推敲して、文章を磨こう	1
7	3 豊かな言葉	自分の魅力を伝えよう	3
		記者会見型スピーチをする	
		漢字1 熟語の読み方	1
		俳句の可能性	3[1]
9	4 読書と情報時代	[書く]俳句を創作しよう	
		俳句十六句	2
		言葉を使おう	
		もっと「伝える」表現を目ざして	1
10	5 状況を読む	[話す・聞く]	
		「伝える」表現について考えよう	5
		文法への扉1	
		すいかは幾つ必要？	1
11	6 論旨を捉える	→文法①文法を生かす	
		読書生活をデザインしよう	5
		未来のわたしにお薦めの本	
		情報コラム 本の探し方・見つけ方	2
12	6 論旨を捉える	蝉の声	
		高瀬舟	3
		光で見せる展示デザイン	
		読書案内	2
12	6 論旨を捉える	季節のしおり 夏	
		挨拶——原爆の写真によせて	6
		故郷	
		練習	1
12	6 論旨を捉える	話し合いを効果的に進めよう	1
		言葉2	1
		慣用句・ことわざ・故事成語	5
		文章の形態を選んで書こう	2
12	6 論旨を捉える	修学旅行記を作る	
		[関連教材]「記憶」と「資料」	2
		季節のしおり 秋	
		音読を楽しもう	1
12	6 論旨を捉える	古今和歌集 仮名序	2
		君待つと——万葉・古今・新古今	3
		夏草——「おくのほそ道」から	—
		[関連教材]古典の伝統	2
12	6 論旨を捉える	練習 お薦めの古典を贈ろう	3
		論理の展開に着目して読もう	
		新聞の社説を比較する	5
		[書く]	
12	6 論旨を捉える	論理の展開を工夫して書こう	2
		課題解決に向けて話し合おう	
		社会への提案をまとめる	5
		文法への扉2	
12	6 論旨を捉える	「ない」の違いがわからない？	2
		→文法②文法のまとめ	
		ネット時代のコペルニクス	5
		——知識とは何か	1
12	6 論旨を捉える	漢字2 漢字の造語力	1
			1

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.17

・第3段落「絶望というものの味わいをも…」強調の助詞「も」の学習をする。「も」で作者の思い(絶望)が強く込められていると読み取れる。
・第3段落「思いとを…」動作の対象を表す助詞の学習をする。この一語で「両方とも」という言葉を表す。

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.21.22.24.25.26

「ぴんと伸びている」状態の副詞「ぴんと」の学習をする。p.22「ルロイ修道士」とp.26「わたし」では使われていないことから体調や気持ちの状態が読み取れる。

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.44.46.47

・p.46「考えられて」いる」と「考えられる」と「考えられているのだ」で、助詞の違いから筆者の考えを学習する。
・p.44「わかってきた」とp.47「わかった」で、補助の関係で筆者の考えを学習する。

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p. 51

自身の文章を推敲する際、p.66とp.214の例を挙げてから、呼応の副詞・係り受けを直す。

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.58.59.60

p.58「風の吹く」p.59「雪の深さ」「跳び箱の突き手」でp.60「たんぽぽのぽぽ」「絮毛のたちにけり」「生かしたのが」、格助詞「の」の違いを学習する。

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.72.73.74

p.72「悪くはない」「はずはないと思う」p.73「行き届いていないのだ」p.74「言えない」で、形容詞・助動詞「ない」の学習する。

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.104

「焼けただれた顔は」「焼けたただれのひとつ」で、動詞＋助詞と名詞の違いを学習する。名詞の表現でさらに1人の顔が個として際立つ。

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.108.109.111.116

・p.108「かき消され」「失われてしまう」で、受け身の助動詞を学習する。
・p.108「失われてしまう」p.109「持ち物になってしまった」で、補助動詞「しまう」で、「そのつもりではないのに、その状態が実現してしまった」という意から主人公の心情を読み取る手がかりとする。
・p.109「初対面なので」p.110「一人でのみである」p.111「飛んでいって」「平気で」で、格助詞、助動詞、形容動詞、接続助詞の「で」の学習をする。
・p.116「身震いしたらしかった」で、推定の助動詞の学習をし、主人公の状態を読み取る。

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.162.163

文末の表現(例:p.162影響はないか・七割以上だ・できるだろう・p.163かみしめたい・考えてみよう)から、「断定・推量・伝聞・意思・希望・疑問」など、書き手が感じたことや判断したことが表れている。そこで、事実と書き手の意図を区別して読み取る学習をする。

1	7 未来へ向かって	三年間の歩みを編集しよう ポートフォリオを編み、語り合う	6
		季節のしおり 冬	—
2		学んで時にこれを習ふ ——「論語」から	10
		アラスカとの出会い	
		温かいスープ	
		聴くということ	
3		わたしを束ねないで	
		漢字3 漢字のまとめ	1
	文法	・一、二年生の復習 ・文法①文法を生かす ・文法②文法のまとめ	

〈実際の授業で扱うところ（案）〉 p.206～208

○「束ねない」「止めない」(打ち消しの助動詞)と「ふちのない水」「終わりのない文章」(形容詞)の違いを「文法への扉2」(p.171)を例に学習する。

上記の内容を授業で扱う際に、復習や演習として使用することができる。とくに、p.216の「文法を生かして読み味わう」は文学作品の学習の際に、例として扱いたい。

《実際の授業での扱い方（案）》

教師：「第3段落で「私はあの朝、初めて言葉というものの貧しさを知ったのである。絶望というものの味わいをも知ったのだった。」とありますね。ここで、筆者は、「絶望というものの味わいを知ったのだった。」ではなく、「絶望というものの味わいも知ったのだった。」でもなく、「絶望というものの味わいをも知ったのだった。」としましたね。みなさんは、どのような違いを感じますか。考えてみましょう。」

生徒：それぞれの探した箇所と根拠を答える。

教師：「ここで使われている副助詞「も」があることで、筆者が「絶望というものの味わい」を強調している意図が感じられるのではないのでしょうか。わずかな言葉の違いで、筆者の思いがいきいきと浮かび上がってきます。その言葉が別の文でどのように使われているかを比較して、考えてみましょう。すると、その言葉の選ばれた理由が分かり、読みが豊かになりますね。」



《実際の授業での扱い方（案）》

教師：「主人公の「わたし」がルロイ修道士の体調の変化に気づき、最後のお別れをしましたね。さて、他にも、ある三文字からルロイ修道士の体調や気持ちの“状態”が読み取れます。探してみましょう。」

生徒：それぞれの探した箇所と根拠を答える。

教師：「この「伸びている」にかかる「ぴんと」は、「状態の副詞」ですね。この「ぴんと」とあるかないかで、ルロイ修道士の状態が読み取れますね。「わたし」は、p.22.l.11「ルロイ修道士も右の親指を立てた。わたしは、はてなと心の中で首をかしげた。」で、体調が悪いことに気づきます。それは、状態の副詞「ぴんと」がないことから読み取れますね。さて、今の学習を生かして、「わたし」の気持ちの状態がわかる場所があります。探してみましょう。」

生徒：それぞれの探した箇所と根拠を答える。

教師：「ルロイ修道士と上野駅の中央改札口の前で別れる場面で、「わたし」は、p.26.l.19「わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、」としましたね。ここでも、今まであった「ぴんと」がありません。そのことから、「わたし」の気持ちの状態、別れを寂しく辛く思う気持ちが読み取れますね。このように、「ぴんと」というたった三文字の副詞ですが、そこに着目することで、読みが豊かになります。作者の意図がこの三文字に込められていると考えられます。ぜひ、他の場面や、作品を読むときにも生かしていきましょうね。」



(3) 高等学校 「中学校の指導との接続を意識した文法指導（古典）」

1. 調査研究のねらい

(1) 現状

高校生の文法への苦手意識の高さは広く指摘されている。研究校においても、1年生を対象に古典学習の各事項（文法・語句の意味・現代語訳・読解）への意識調査を質問紙により実施したところ、苦手なこととして47,0%の生徒が「文法」と回答した。その理由の多くは「覚えることが多いから」というものである。

一方、好きな事項としては60,0%が「読解」と回答した。「登場人物像を推測するのが面白いから」「昔の人の考えや思いに触れることができるから」「現代人と同じ感情を持っていたりするから」と人間の内面に目を向けた内容が多く見られる。反対に、読解が苦手な理由は「登場人物の心情をつかむことが難しいから」というものが多い。

この文法への苦手意識は、高校での古典学習を開始していない入学直後の1年生の意識調査の結果からも見て取れる。（国語における苦手な事項 文法 25,8%、語句の意味 5,8%、現代語訳 24,0% 「ベネッセコーポレーション ステディサポート」研究校 H24 調査結果より）

このように、文法への苦手意識は中学校段階で既に生まれており、文法指導についての調査研究を行うことは学校間の接続を踏まえた学習指導を考えるうえでの重要な課題であると言える。

(2) 背景

このような文法への苦手意識を生む要因を先の生徒意識調査結果から探してみると、多数の生徒にとって文法が苦手な理由は「覚えることが多く、覚えられないから」である。また、「実際の文で出て来ると品詞の見分けがつけられない」という意見からは、文法学習での学びを読解において生かせていないことがわかる。

生徒達の意識の中では、文法学習とは「決まりを覚える」学習で、学習方略は「暗記」であること、文法学習と読解とを切り離して認知していることが推察される。

本来、文法とはより深く読むための手段である。この文法を学ぶ意義を生徒が理解せず、文法学習は文法問題解法の目的となっていることが、文法への苦手意識・学習意欲の低下を生む要因であると考えられる。これは、従来の文法指導が読解とは独立して行われがちであることにも一因があるのではないだろうか。

(3) 本研究のねらい及び仮説

以上の現状と背景から本調査研究では異校種間の学習内容の系統性を意識するという共通事項を踏まえ、以下のことをねらいとした調査研究を行うものとする。

古典を初めて学習する高校1年生を対象とし、中学校での既習事項を生かした、読みを深めるための文法指導について、その検討を行う。

このねらいについて、先の生徒意識調査結果から以下の3点を仮説として立てる。

- ① 文法を活用した読解により、文法を意識し、読解につなげる構えを作ることができるであろう。（文法意識）
- ② 読解における文法の有効性を理解することにより、文法を学習する意義についての認知が高まるであろう。（文法学習意義）

- ③ 文法学習の意義を理解することにより、文法を学習することに対する意欲が高まるであろう。（文法学習意欲）

これらの仮説について検証授業により検討を行う。

2. 実践

（１）検証手順

意識調査アンケート → 検証授業（２時間） → 意識調査アンケート

検証授業前後に文法への意識調査と本文への内容理解に関する質問紙調査を行い、変化をみることとする。

（２）文法事項の設定

本調査研究では「係り結び」を取り上げる。係り結びは、現在の日本語ではほとんど用いられておらず、生徒にとっては馴染みのないものであると言える。また、中学校では係り結びについて、用語の理解、強調の意味、整調のはたらきといった、形の部分のみを取り上げているに加えて、高校においても法則の型を形式的に暗記する学習になりがちである。特に強意の「ぞ」「なむ」「こそ」においては、文法書には「訳さなくてもよい」とも説明される。このようなことから、生徒にとっては係り結びの役割や学びの意義を感じる事が難しい文法事項であると言える。しかし、通常表現ではなく、係り結びが使われていることには文脈上の意味があるはずである。そこで、係り結びの有無により、読解にどのような変化や深まりが生じるのかを考えさせるなどの係り結びに注目した指導方法により、ねらいの検証を行う。

（３）指導教材

教材として『伊勢物語』第２３段「筒井筒」を取り上げる。本教材は多くの古典教科書に採録され、古典を初めて学習する生徒が触れることの多い作品である。よって汎用性の観点から有意義であり、係り結びの使われ方に着眼することで登場人物の心情の揺れや変化を読み取る指導が可能であると考えたからである。

（４）指導方法

本文を「場面Ⅰ」と「場面Ⅱ」に分け、ワークシートを用いた指導を行う。まず、場面Ⅰでは「本意」の内容を具体的に考えることを課題とした。（ワークシート①）その際には次のような学習手順を踏むものとした。

- ① の「本意」について→②係り結びについて→③女の「本意」について

「本意」とは「かねてからの望み」であり、文中より男の「本意」を導き出すことは多くの生徒にとって容易な問いである。次に、出された解に注目すると係り結びが使用されていることに気がつく。ここで係り結びについて中学校での既習事項を交えた学習を行う。これにより、生徒は「係り結びの使用箇所」＝「登場人物の強い心情の表れた箇所」という認知を持つこととなり、比較的迷いやすい女の「本意」を的確に導き出すことが可能となる。さらに、親の決めた相手と結婚することが一般的であった時代背景の中で、自分の意志を貫く「女」の女性像への考察も係り結びに着目することで深めることができる。

次に場面Ⅱでは登場人物の心情の動きを読み取ることを課題とした。（ワークシ

ート②・③) これは、作品内容を理解するうえで多くの教材において行われる学習である。この際の多くの生徒にとっての難しさは、どこに心情表現があるのかわからないという点にある。それは、文中には嬉しい、悲しいなどの直接的な心情表現は少なく、本文内容を理解しながら心情描写を探し出すことが必要となるためである。また、主語を誤認してしまうことや、心情変化の推移を混乱してとらえてしまうことも見受けられる。

それらの解決方法として、本研究の特徴である「心情＝係り結びに着目」という指導方法を使用することにより、生徒は着眼箇所を絞りの確に心情描写を探し出すことができる。さらに、ワークシート③の一覧表をまとめることにより、それぞれの心情変化と心情が生み出す行動を整理して理解することができる。加えて、場面全体を見通し、各人物像を把握することができる。以上のように、係り結びの使われ方に着眼することで、効果的に読みを深める指導を行うことが可能になる。

『伊勢物語』 「筒井筒」

【場面Ⅰ】

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、大人になりにはければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども、聞かでなむありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井筒井筒にかけしまろが丈過ぎにけらしな妹見ざるまに
女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき
など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

【場面Ⅱ】

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、もろともに言ふかひなくてあらむやはとて、河内の国高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、このもとの女、あしと思へるけしきもなくて、出だしやりければ、男、異心ありてかかるにやあらむと、思ひ疑ひて、前栽の中に隠れあて、河内へいぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じて、うちながめて、

風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ
とよみけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

まれまれかの高安に来てみれば、初めこそ心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、筥子のうつはものに盛りけるを見て、心うがりて行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、

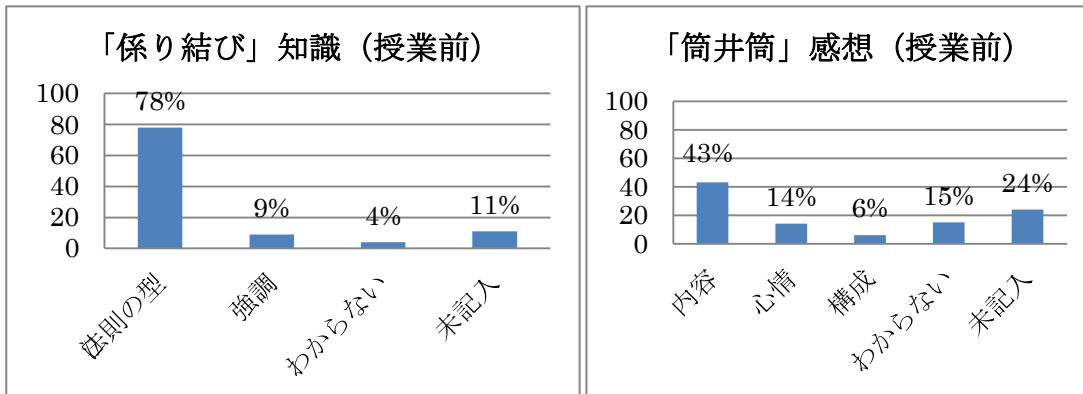
君があたり見つつををらむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも
と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来む。」と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る
と言ひけれど、男住まずなりにけり。

3. 結果

以下、研究校で実施したアンケート結果の分析及びワークシートの分析を示す。アンケートは、係り結びに関する学習前後の知識量・質の変化、文法学習に関する意識の変化、係り結びの学習に関する学習意義の認知の変化等に関するものである（資料参照）。実施時期は10月末、授業の前後に行った。回答者は熊谷高等学校3クラス120名である。

（1）授業前アンケートの分析



（FIGURE 1）

（FIGURE 2）

Q③『「係り結び」について、現在知っていることを記入して下さい』については、「ぞ・なむ・や・か→結びが連体形」「ぞ・なむ・や・か・こそ、が文末表現に関わってくる」などの法則の型についての記入が78%、「強調など意味も変わってくる」「結ばれている部分を強調している」などの意味について触れたものは9%、「わからない」4%、未記入が11%であった。

Q⑤『「筒井筒」の感想を自由に記入して下さい』では、「恋愛の話だと思った」「男女の関係はいつの時代でも複雑なのかなと思いました」など内容に関することが43%、「どうしようもない男だと思った」「女の人がかawaiiそう」など登場人物の心情に触れたものが14%、「文の途中に和歌が交ざっている」など構成に関することが6%、わからない15%、未記入24%であった。

（2）ワークシートの分析

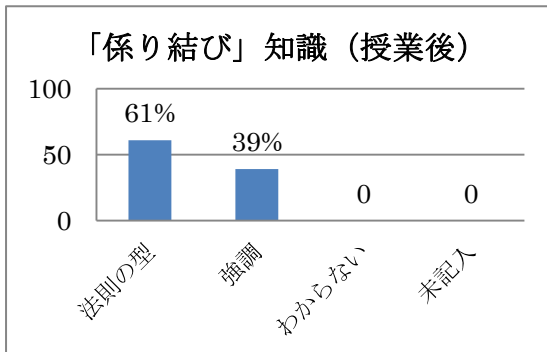
ワークシート①において、「男はこの女をこそ得めと思ふ。」という1文について係り結び学習前後に現代語訳を行ったところ、次のような変化が生じた。

（学習前）

（学習後）

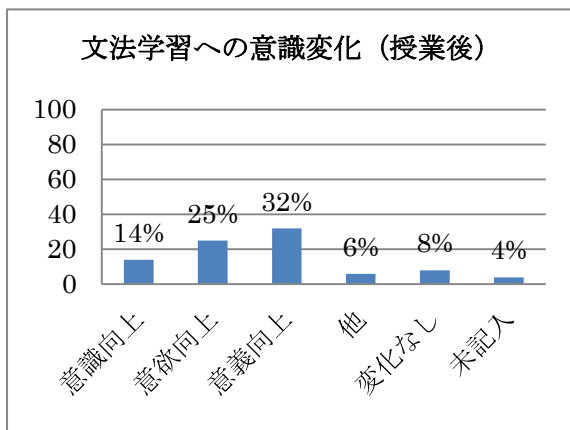
- 生徒1 男はこの女を得たいと思う。→ 男はこの女をなんとしても得たいと思った。
生徒2 男はこの女と結婚したいと思った。→ 男はぜひともこの女と結婚したいと思った。
生徒3 男はこの女と結婚したいと思った。→ 男はどうしてもこの女と結婚したいと思った。

(3) 授業後アンケートの分析



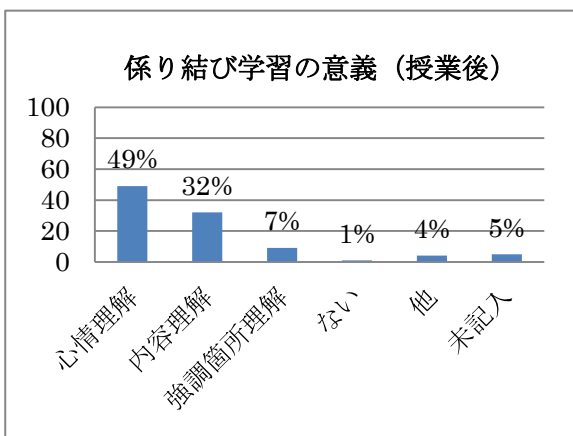
(FIGURE 3)

Q①「『係り結び』について、現在知っていることを記入して下さい」については、「文中に、ぞ・なむ・や・か・こそ、がくると文末が連体形や已然形に変形する」など法則の型に関することが61%、「心情を強調する」「心情を強め、反語として肯定の意味を強く作り出す」「伝えたいことを強調したいときに使う」などの意味に関することが39%であった。



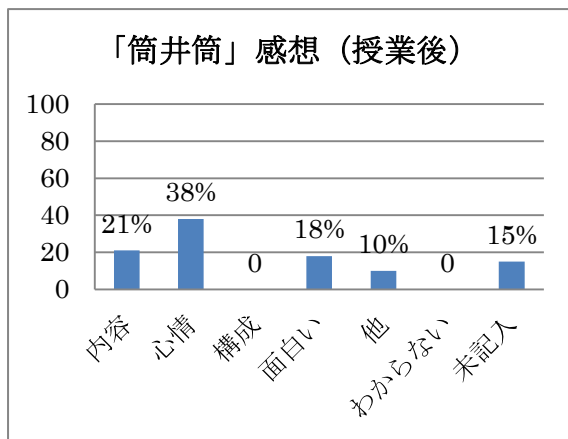
(FIGURE 4)

Q④「『筒井筒』学習」の前後で、文法学習への意識はどのように変化しましたか。自由に記述して下さい」では、「文法を知っているのと知らないのとでは理解度が大きく変わるので意識が高まった」など意識の高まりが14%、「文法を学ぶことでより深く物語の内容を理解できるようになったので、これからは苦手意識を持たずにやっていきたい」など意欲の高まりが25%、「文法がこんなに大切なものだと思わなかったの、良い学習ができた」など意義の高まりが32%、他6%、変化なし8%、未記入が4%であった。



(FIGURE 5)

Q②「『係り結び』を学習する意義や、学習することの効果」を記入して下さい」には、「登場人物の気持ちが理解しやすくなる」など心情理解が49%、「ストーリーへの理解がより深まる」など内容理解が32%、「作者が特に強調したいと思った場面を見抜く」など強調箇所理解が7%、「ない」1%、「テストで点数がとれる」などその他4%、未記入5%であった。



(FIGURE 6)

Q⑤「『筒井筒』の感想を自由に記入して下さい」では、「女をどう見るかによって物語が変わってくるので面白かった」「最初は大和の女が理想と思っていたが、河内の女の方が絶対良いと思った」など内容に関するものが21%、「登場人物の心情が豊かに表現されていて面白かった」「男の気持ちの変化が面白い」など心情については38%、「面白い」が18%、その他10%、未記入15%であった。

4. 考察

結果について本調査研究のねらいと仮説とに即して考察を行う。ねらいは「古典を初めて学習する高校1年生を対象とし、①中学校での既習事項を生かした②読みを深めるための文法指導について、その検討を行うこと」であるので、文法事項を活用することで読みを深める指導方法の効果について検討を行う。その結果、以下の点が確認された。

結果1. 文法事項についての知識の深まりが示された。

結果2. 文法への意識の高まりと活用した読みを行うことへの構えが示された。

結果3. 文法を学習することについての認知の高まりが示された。

結果4. 学習内容に対する理解の深まりが示された。

結果5. 文法を学習することに対する意欲の高まりが示された。

結果1について

検証授業前には、係り結びへの知識の多くは「係助詞…連体形」のような法則の型に関するものであった（FIGURE 1）。これは、生徒がその文法の決まりを暗記する学習方法をとっていたことによると推察される。それが授業後には心情を強調する働きについての記入が多く見られるようになった（FIGURE 3）。また、ワークシート①での現代語訳の授業前後の比較からも、「ぜひとも」「なんとしても」などの強意を意識した訳への変化が見られた。これらのことは、文法の意味や役割にも意識を向けるようになった知識の深まりを示すものであると言えよう。

結果2について

授業後には「文法を知っているのと知らないのとでは理解度が大きく変わるので、文法学習への意識が高まった」「係り結びに注意して文を読むようになった」など、文法を活用して読み取りをしようとするが見受けられるようになった。また、「より難しいと思うようになった」という意見は、文法に注意を向け、学習主体としての意識が高まってきたことを示すと言えよう（FIGURE 4）。

結果3について

授業前の生徒にとっての文法学習とは「暗記」であった（授業前アンケート Q④結

果)。暗記学習は考查で点数を取るための学習と捉えられ、単調で機械的に行われることが多い。それゆえ、生徒の文法学習意義への認知は低いことが推察される。それが授業後には、「文法を理解することで、物語の内容が一層深く理解でき、今まで感じることのなかったことや時代背景もわかるようになり、文法学習が重要なことがわかった」「最初のうちは意味がわからないまま読んだり学習したりしていたが、歴史的背景や和歌の意味、登場人物の心情などを文法により知ることによって意味がわかるようになったり、物語のポイントを掴めるようになった」など、登場人物の心情や本文内容の理解を深めるためには文法が重要であることを認知する回答が多く示された（FIGURE 5）。これは、文法を「暗記するもの」から「活用して読みを深めるもの」とする認知の変容を示すものであろう。

結果 4 について

作品についての感想記述を授業前後で比較すると、授業前の初読時では「男女の話だと思う」というような大筋についての記述が多くを占めていたが（FIGURE 2）、授業後には「大和の女と河内の女のどちらがよいのかわからなくなってしまった」「女は男に振り回されてかわいそう」など、心情について触れたものが増えた。これは、係り結びを活用して読解を行ったことの効果であると推察できる。また、「いつの時代も男は優柔不断」など当時と現在とを比較するなど、内容についての理解の深まりも見られた（FIGURE 6）。

結果 5 について

授業後には「大変だけど、よりわかりやすく読むためには文法をしっかりとやらなければならないなと思った。真面目にやろうと思った」など、文法学習への意欲の高まりを示す記述が多く見られた。（FIGURE 4）。これは、文法を活用することで内容理解が深まった実感を生徒が持ったためであろう。学ぶ内容が「大変」であり「難しい」ものであっても、学ぶ意義や有用性を持たせることで学習意欲が高まることが改めて示唆されたと言える。

以上の考察より、

- ①文法を活用した読解により、文法を意識し、読解につなげる構えを作ることができるであろう。（文法意識）
 - ②読解における文法の有効性を理解することにより、文法を学習する意義についての認知が高まるであろう。（文法学習意義）
 - ③文法学習の意義を理解することにより、文法を学習することに対する意欲が高まるであろう。（文法学習意欲）
- という仮説は支持されたと考えることができる。

5. 今後の課題

学習指導要領には「文語文法の指導は読むことの学習に即して行うこと」と示され、暗記指導に陥らないよう配慮と工夫が求められている。しかし、本文内容の読み取りのためには文法のきまりを理解していることが必要であるため、従来の指導方法では特に年度当初に文法のみを取り立てた指導を行いがちであった。このため、生徒は学習の導入期に大量の文法事項を学習意義や文法の持つ意味への理解が不十分なままに

暗記することとなり、文法への苦手意識を持ってその後の古文学習に臨むこととなっていた。

これに対して、本調査研究では読みを深めるための文法指導を行うことにより、生徒が文法学習の意義を理解し、文法学習への意欲が高まり、文法を活用した読解を行うようになるであろうと考えた。その結果、それぞれにおいて高まりが確認された。

本調査研究は実際の学校現場で行われた実践であるため、多くの学校現場で取り入れやすいものである。また、高校1年生を対象としたため、古典への苦手意識を早期に取り除き、スムーズな学習へと向かわせる点においても効果的であろう。これらの点から、文法指導における教育実践に一つの提言を与えるものとなり得るだろう。

今後の課題として、活用により読みを深める指導が可能となる文法事項と古文作品との検討を引き続き行う必要がある。文法学習の有用性を学習の中で繰り返し感じさせることが、古文への学習意欲を高めることに有効であろう。

また、小学校や中学校との連携を継続して行い、学習の系統性を踏まえた指導内容・指導方法の工夫改善を行いたい。知識の広がる楽しさや、学習内容が理解できたという自信を小中高のそれぞれの段階で持つことが、中1ギャップ、高校の中途退学などの現在の学校教育が抱える問題の解決への一つの方法であろう。生徒の実態を把握し、発達に即した指導を行うことができるのは生徒と日々向き合う教員である。毎日の授業から問題の解決を目指していきたい。

5 成果と課題

平成24年度国語科は全5回にわたり部会をもった。校種ごとの協議、異校種を交えての協議を通して、系統性に対して意識を高め、必要性を再認識することができた。また、そうすることで逆に自分の校種に対する理解を深めることもできた。これは大きな成果として捉えてよいと思う。校種ごとには、まず、小学校では言語事項を読解に生かす視点を持つことができた。中学校では年間指導計画を作成することで、継続的な取組を促し、学習事項の定着を図るための資料を提示することができた。高等学校では、文法学習の有用性を実感させ、読解と結びつけた文法学習を示すことができた。平成25年度においては授業参観を行うなどしながら、これらの成果を実際に検証していくことを課題としたい。高等学校においては現代文での実践にも取り組みたい。そして、これらの成果を再検討し、それを広く学校現場に投げかけていきたい。小中高で系統的な実践を継続的に行うことが、より円滑な接続につながるだろうと考える。

以下に、今年度の調査研究委員の先生方から聞かれた声を示す。

〈成果〉

- 小中高と調査研究を進めるにあたり、接続に関して情報交換ができた。
- 実際に小中高の教科書を見たり、意見交換をしたりする中で、系統性に対する意識が高まった。
- 系統性を意識した指導の重要性が再確認できた。
- 言語活動の充実が叫ばれているが、文章を正しく理解したり、適切に文章を理解したりするには、言語事項の定着が不可欠であると再確認できた。
- 文法学習についての必要性に対して共通認識が得られた。
- 読解指導に生かせる文法指導ができた。
- 読解と文法指導を結びつける教材作成ができた。
- 文法学習に対する意欲を向上させることができた。
- 中学校での既習事項をさらに発展させる形で文法学習を捉えることができた。

〈課題〉

- ◇平成25年度は、調査研究部会で作成した学習指導案や年間指導計画を実践し、児童・生徒たちの変容を検証する。
- ◇異校種での授業参観を通して、自分の実践に役立てる。
- ◇来年度は現代文『羅生門』での検証を予定している。
- ◇調査研究で作成した学習指導案や年間指導計画を現場で使ってもらえるよう、年次研修や総合教育センターのHP等で紹介する。

6 おわりに

今年度、小中高の接続を意識した調査研究を開始した。異校種の先生方との情報交換の中で、互いの理解を深めることができた。言語事項に着目し、接続に生かせる指導法の開発を目指した。これは単なる言語事項の指導にとどまらない。文法を意識し、読むことは、的確な読みを促す。文構造を正しく捉え、正確に読み、適切に表現する学習を積み重ねることで文章を的確に読むことにつながる。叙述を基にした読みはここからもたらされる。小学校で文法を意識させ、中学校で年間指導計画を作成し、定着を図る。それを高等学校での読むことの指導に生かしていく。これはそれぞれの校種での学習指導に役立つのみならず、児童・生徒に系統的な国語科指導を行うことにつながり、学力向上に寄与するものと考えている。

【指導事例】

第 6 学年〇組 国語科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日（〇）

授業者 担任

在籍児童数

1 単元名・教材名 作品の世界を深く味わおう 「やまなし」

2 単元について

これまでの国語の学習の中で、児童は様々な作品と出会ってきた。高学年で学習するだけでも、説明的な文章・文学的な文章を合わせて、次のような作品が挙げられる。

- ・人物のかかわり合いを読み、感想を書こう 「のどがかわいた」
- ・筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう 「見立てる」「生き物は円柱形」
- ・伝記を読んで、自分の生き方について考えよう 「百年後のふるさとを守る」
- ・作品を自分なりにとらえ、朗読しよう 「大造じいさんとガン」
- ・説明のしかたについて考えよう 「天気を予想する」
- ・詩の楽しみ方を見つけよう
- ・自分の考えを明確にしながら読もう 「ゆるやかにつながるインターネット」
- ・物語を読んで、自分の考えをまとめよう 「わらぐつの中の神様」

【以上 5 年生】

- ・自分の体験と重ねて読み、感想を書こう 「カレーライス」
- ・文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう 「感情」「生き物はつながりの中に」
- ・伝統文化を楽しもう 「伝えられてきたもの」
「柿山伏」「柿山伏について」
- ・作品の世界を深く味わおう 「やまなし」「イーハトーブの夢」【本単元】
- ・ものの見方を広げよう 「『鳥獣戯画』を読む」
- ・言葉について考えよう 「言葉は動く」
- ・物語を読んで、考えを深めよう 「海の命」

【以上 6 年生】

それぞれの作品が、内容とともに優れた文章表現の特徴を備えるものであった。それらを想起し、本教材「やまなし」で文章表現、文芸作品の多様性、豊かさについて考えるのも、6 年生のこの時期には重要なことであると考えられる。

児童は、日常生活の中で「擬声語・擬態語」「比喩」などを使って、自分の考えや思いを伝え合っている。会話の中はもちろん、日記や作文の中でも「擬声語を使おう」「『たとえ』の表現をしよう」という意識は全くもっていないまま、使っているのである。

本時の授業は、自分たちも「擬声語や擬態語、比喩表現を使っている」ということを意識させることを「ねらい」としている。

本教材「やまなし」は、児童がこれまで学習してきた作品と比べ、擬声語・擬態語・比喩を多用している。この点については、児童も一読しただけで気づくであろう。その「気づき（初発の感想）」から、本時の学習課題「心に残った言葉や文の秘密を探ろう」につなげていく。

まず、児童の感想の中から、「表現の工夫」について言及しているものを、意図的に取

り上げる。それは、本時の授業で「擬声語・擬態語・比喩」について指導したいという「ねらい」があるからである。授業の前に、取り上げた感想をプリントにして、本時の教材とする。

次に、そのプリントにある感想を、児童に分類させる。「分類する」という明確な目的により、児童は、感想をよく読み、どのように分類したらよいか思考し、判断することになる。しかし、この段階の児童の考えは、「音を表した表現」や「様子を表す表現」など具体的ではない。具体的でないために、児童は、その表現の方法を意識できないのであると考える。

そこで、最後に、児童の考えは大切にしながら、「比喩」という言葉は教えたい。そして、児童から「ここに比喩が使われている」という発言が出るようにしたい。

3 単元目標

- (1) 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。 **【関心・意欲・態度】**
- (2) 「やまなし」に描かれた情景や作者の思いを、叙述に即して豊かに想像を広げながら読むことができる。 **【読むこと】**
- (3) 比喩的な表現（擬声語・擬態語・色彩語・比喩）の効果的な使い方を理解することができる。 **【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】**

4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・ 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。	・ 「やまなし」に描かれた情景や作者の思いを叙述に即して豊かに想像を広げながら読んでいる。	・ 比喩的な表現（擬声語・擬態語・比喩）の効果的な使い方を理解している。
学習活動に即した評価規準	① 学習のめあて、活動の内容と手順がわかり、宮沢賢治の作品を読もうとしている。 ② 情景や独特の表現に興味をもち、「表現の工夫」について考えようとしている。 ③ 谷川の底の様子を自分なりに想像しようとしている。 ④ 宮沢賢治のものの見方や生き方について進んで知ろうとしている。	① 物語をはじめて読んだ感想を書いている。 ② 作品に描かれている情景を、叙述に即して読み取っている。 ③ 作者の思いを、作品の叙述に即し、想像しながら読んでいる。 ④ 「イーハトーヴの夢」から宮沢賢治のものの見方や生き方を読み取っている。 ⑤ 他の作品の特色や宮沢賢治の思いについて、自分なりに読み取っている。	① 比喩的な表現（擬声語・擬態語・比喩）の効果的な使い方を理解している。 ② 物語の構成について意識をもっている。

5 指導と評価の計画

時	主 な 学 習 活 動	学 習 内 容	評価規準・評価方法
1	○全文を通読して、物語の大体の内容をつかみ、初発の感想を書く。	- 単元のめあて 「作者の考え方や生き方と重ねて、作品を豊かに読もう。また、他の作品へと読み広げよう。」（教科書 P102） - 題名から連想すること 「なぜ、宮沢賢治は、『やまなし』にこの題名をつけたのだろうか。」（教科書 P125） → 学習のゴール - 全文通読 - 初発の感想の書き方 → 気になった文を視写する。	アの① 発言の内容の分析や態度の観察 エの① 感想を書く様子の観察 書き上がった感想
2	○「初発の感想」から、作品に表れている「表現の工夫」について考える。	- 擬声語・擬態語 - 比喩	アの② 発言の内容の分析や態度の観察 オの① 活動の様子や学習感想の分析
3	○「五月」の谷川の様子を想像しながら読み取る。 → 会話や擬声語・擬態語・比喩などから、幼いかにの兄弟の様子や情景を想像しながら読む。	- 個人学習のしかた - 叙述への線の引き方 - 書き込みのしかた - 擬声語・擬態語・比喩	アの③ 発言の内容の分析や態度の観察 ウの② 活動の様子や学習感想の分析
4	○「五月」の谷川の様子を想像しながら読み取る。 → 「かわせみ」が出現したときのかにの兄弟の様子や情景を想像しながら読む。	- かにの兄弟の様子 - 谷川の底の変化 - 擬声語・擬態語・比喩	アの③ 発言の内容の分析や態度の観察 ウの② 活動の様子や学習感想の分析
5	○「十二月」の谷川の様子を想像しながら読み取る。 → 成長したかにの兄弟の様子と情景を想像しながら読む。	- かにの兄弟の様子 - 谷川の底の変化 - 擬声語・擬態語・比喩	アの③ 発言の内容の分析や態度の観察 ウの② 活動の様子や学習感想の分析
6	○「十二月」の谷川の様子を想像しながら読み取る。 → 「やまなし」が落ちてきたときのかにの兄弟の様子と情景を想像しながら読む。	- かにの兄弟の様子 - 谷川の底の変化 - 擬声語・擬態語・比喩	アの③ 発言の内容の分析や態度の観察 ウの② 活動の様子や学習感想の分析

7	○「五月」と「十二月」の様子を対比して相違点や類似点を見つけて書き込む。	・場面の確認 ・相違点と類似点 ・感想の交流	ウの③ オの② 活動の様子や学習感想の分析
8	○資料「イーハトーブの夢」を読んで、作者についてまとめる。→ 年表づくり	・年表の書き方 ・作者の生きた時代・考え方	アの④ 学習態度の観察 ウの④ できあがった年表
9	○作者の作品や生き方について感想を発表する。 ○宮沢賢治の他の作品を鑑賞する。	・感想の交流 ・作品の鑑賞	アの④ ウの⑤ 感想発表の様子の観察
10	○学習を振り返り、なぜ、宮沢賢治は『やまなし』に、この題名をつけたのか、自分なりの結論を書く。	・学習のまとめ ・感想の交流	アの④ ウの⑤ 感想交流の様子や書き上がった結論

6 本時の学習指導

(1) 目標

比喩的な表現（擬声語・擬態語・比喩）の効果的な使い方を理解することができる。

(2) 評価規準

情景や独特の表現に興味をもち、「表現の工夫」について考えようとしている。

比喩的な表現（擬声語・擬態語・比喩）の効果的な使い方を理解している。

(3) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導と評価の創意工夫	時間
1 前時の学習内容を想起する。	○前時の学習内容の確認 ・「やまなし」のあらすじ ・感想を書いたこと 感想集〈例〉 ・言葉がおもしろい。「クラムボン」「カプカプ笑ったよ」 ・静かできれいな言葉が多い。「水はサラサラ」「夢のように」 ・「青光りのぎらぎらする鉄ぼうだまのようなもの」とは何だろう。 ・鳥のくちばしをコンパスに例えていておもしろい。 ・「もかもか」という表現がおもしろい。聞いたことがない表現。 ・「トブン」は「ドブン」とまちがえそう。 ・「天井」はかのにの兄弟から見た「天井」なのかな。 ・「イサド」ってどんなところなんだろう。	・前時に「やまなし」を読んで、心に残っている場面を想起させる。 ・前時に書かせた「初発の感想」を「感想集」としてプリントにして配る。 ※まだ、内容理解が充分でない ので、表面上わかりやすい「言葉」に関する感想が多かった。 → 児童の実態から「学習課題」をつくった。 → 教師の指導したいこと ・作者が作った言葉 ・擬音語・擬態語・擬声語 ・比喩（直喩・隠喩） に合わせ、意図的に感想を選ぶ。	5
2 本時の学習課題を確認する。	○本時の学習課題の確認		10

心に残った言葉や文の秘密を探ろう。

3 「心に残った言葉や文の秘密」を探るため、「感想集」の内容を分類する方法を知る。 → 分類の仕方を知る。	○分類の仕方 → 「叙述」に着目して → 「共通点」を探して (サイドライン) → 分類した理由	・学習モデルとして、教師が、児童の前で分類をしてみせる。 → 分類の仕方を教える。 ・「感じかた」ではなく、 〈例〉・きれいな表現 ・おもしろい表現 ・静かな表現 (×) 「叙述」に着目して分類することを押さえる。 〈例〉・音を表した表現 ・様子を表した表現 ・「○○ような」がついている。 ・他のものに例えている。 (○) ・「よい例」と「悪い例」の両方を示す。	
4 「感想集」の内容を分類する。 → 共通点を探して分類する。	○分類すること ○分類した理由をはっきりさせること	・共通する部分にサイドラインを引かせる。 → 叙述に着目することができるようにする。  ・なぜ、サイドラインを引いたのか考えさせる。 ・学習形態を4～5人のグループにして、友達と相談しながら考えてよいことを伝える。 → グループでの交流 ・理由まで考えられた児童には、できるだけ簡潔に説明できるように考えさせる。	15
5 分類の仕方とその理由を発表する。	○理由をはっきりさせた話し方	・発表を聞いている児童にも、「感想集」にサイドラインを引かせたり、理由をメモさせたりする。	5

6 表現の工夫「擬声語・擬態語」「比喻」を知る。	○擬声語・擬態語 → 音の感じで様子を表した言葉（教科書 P 125） 〈例〉 ・クラムボンは<u>かぷかぷ</u>笑ったよ。 ○比喻 → たとえ（教科書 P 125） 〈例〉 ・<u>月光の黄金</u>は、<u>夢のように</u>水の中に降ってきました。	・児童の「気づき」を大切にする。 【参考】 ・擬音語…実際の音をまねて言葉とした語。「さらさら」「ざあざあ」「わんわん」など。擬声語。オノマトペア。オノマトペ。 ・擬声語…①擬音語に同じ。②人・動物の声をまねた語。「きやあきやあ」「わんわん」の類。写生語。→擬態語 ・擬態語…視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象をことばで表現した語。「にやにや」「ふらふら」「ゆったり」の類。→擬音語・擬声語（広辞苑 第五版 岩波書店）	5
7 本時のまとめをし、学習感想を書く。	○学習感想	○今日の授業で、よくわかったこと・よくわからなかったことなどを記述させる。	5

『伊勢物語』「筒井筒」学習アンケート

(授業前)

- ① 本文を音読することの意義や効果を記入して下さい。
- ② 古文作品の歴史的背景理解は、作品内容理解とどの程度関連があると思いますか。

a 大いにある	b 少しはある	c あまりない	d ほぼない
---------	---------	---------	--------

- ③ 「係り結び」について、現在知っていることを記入して下さい。

- ④ 以下の事柄について、(ア) 苦手なもの (イ) 好きなものはどれですか。
それぞれ一つずつ選び、その理由もあわせて記入して下さい

a 文法学習	b 語句の意味を学習	c 現代語訳をつくる	d 話の内容を理解する
--------	------------	------------	-------------

(ア) 苦手なもの
() 理由

(イ) 好きなもの
() 理由

- ⑤ 「筒井筒」の感想を自由に記入して下さい。

『伊勢物語』「筒井筒」学習アンケート

(授業後)

①「係り結び」について、現在知っていることを記入して下さい。

②「係り結び」を学習する意義や、学習することの効果を記入して下さい。

③ 古文作品の歴史的背景理解は、作品内容理解とどの程度関連があると思いますか。

a 大いにある	b 少しはある	c あまりない	d ほぼない
---------	---------	---------	--------

④「筒井筒」学習の前後で、文法学習への意識はどのように変化しましたか。自由に記述して下さい。

⑤「筒井筒」の感想を自由に記入して下さい。

課題1 二重傍線部「本意」の内容を具体的に考えよう

― 昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、大人になりになれば、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども、聞かでないありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井筒井筒にかけしまろが丈過ぎにけらしな妹見ざるまに女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべきなど言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

古語「本意」の意味＝

(1) 男の「本意」が現れている箇所を抜き出す。

つまり

↓

へ。

係り結びの法則 Ⅱ 意味上の係りで文末を迎え、特定の形で結ぶ。

係助詞	結び
ぞ	連体形。
なむ	
か	
こそ	已然形。
：	
：	

係助詞	意味	訳
ぞ	強意	(訳さなくてもよい)
なむ		
こそ		
か	疑問 反語	…か。 …か、いや…ない。

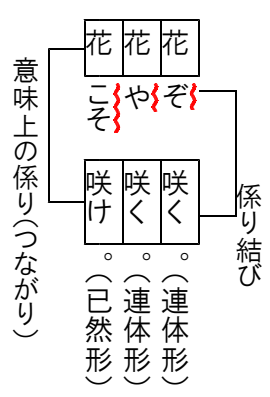
〈通常の文章〉

花 咲く。(終止形)

(訳)

花が咲く。

〈係り結び〉



花が咲く。
花が咲くか(いや、咲かない)。
花が咲く。

係助詞は、上の語が意味の上で係る(つながる)部分で文末(。)を迎えた場合に、結びの形(連体形・已然形)を作る。

中学校既習事項

係り結びは、ある事象や行為などに対する、作者や登場人物の感動や疑問の気持ちなどを、より強調する時に用いられる。

男はこの女をこそ得めと思ふ。 ↓ 訳

② 女の「本意」の強さが現れている箇所を二カ所抜き出す。

①

女の「本意」

＝

いふ。

②

女の気持ち＝

() に髪上げをしてほしい

()

()

反語
…… →

疑問
……

疑問？ 反語？

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき

(訳) あなたと長さを比べてきた私の振り分け髪も肩より長くなりました。
あなたでなくて誰が ()

*この「女」はどのような女性か？ ↓

平安時代の結婚

課題2 登場人物の心の動きを読み取ろう

Ⅱ さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、もろとも言ふかひなくてあらむやはとて、河内の国高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、このもとの女、あしと思へるけしきもなくて、出だしやりければ、男、異心ありてかかるにやあらむと、思ひ疑ひて、前栽の中に隠れあて、河内へいぬる顔にて見れば、この女いとう化粧じて、うちながめて、
風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ
とよみけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。
まれまれの高安に来てみれば、初めこそ心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、笥子のうつはものに盛りけるを見て、心うがりて行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、
君があたり見つををらむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも
と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来む。」と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、
君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経ると言ひけれど、男住まずなりにけり。

心情Ⅱ（ ）に注目！

【係り結び使用箇所】

- a もろとも言ふかひなくてあらむやはとて、
- b 男、異心ありてかかるにやあらむ
- c 風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ
- d 初めこそ心にくくもつくりけれ、
- e 君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る

↓ aとeでは、それぞれ「誰の」「どのような」心情を強調しているのだろうか。

aとeをそれぞれ分類しよう

「男」についての記述	「女」についての記述	「河内の女」についての記述

↓ ワークシート③に取り組もう

係助詞の注意すべき用法1

a 「や」「か」の文末用法

係助詞は本来は文中。

疑問・反語の「や」「か」は文末で使われる場合もある。
文末表現の場合は、係り結びはない。

a・b・cは 疑問 or 反語

ワークシート①での既習事項

疑問⇨疑いの心情 反語⇨強い肯定の心情

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき

(←)

a もろともに言ふかひなくてあらむやはとて、

↓

訳

b 男、異心ありてかかるにやあらむ

↓

訳

c 風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ ↓

訳 風が吹くと沖の白波が立つ、その竜田山を、夜中にあなたは一人で
今頃()。

『伊勢物語』『筒井筒』ワークシート③

クラス

番号

氏名

登場人物の心の動きと行動推移

「男」についての記述	a もろともと言ふかひなくて あらむやはとて、 ↓②プリ 係り結び意味【 心情（ ） 】 その後の行動	b 男、異心ありてかかる にやあらむと ↓②プリ 係り結び意味【 心情（ ） 】 その後の行動	その後の行動	d 初めこそ心にくくもつくり けれ、 ↓プリ1 係り結び意味【 心情（ ） 】
「大和の女」についての記述	親が亡くなる 女の態度	c 風吹けば沖つ白波たつた山 夜半にや君が ひとり越ゆらむ ↓②プリ 係り結び意味【 心情（ ） 】		
「河内の女」についての記述	(予測される) 女の態度	e 君来おと言ひし夜ごとに 過ぎぬれば頼まぬもの 恋ひつぞ経る ↓プリ2 係り結び意味【 心情（ ） 】 女の態度		

強意の係り結びの働き

「強意の係助詞「ぞ」「なむ」「こそ」の有無により、言いたいことはどう変わるのか」

1, dについて

初めこそ心にくくもつくりけれ、

訳 通い初めの頃は（

）、

今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、笥子のうつはものに盛りけるを見て、
心うがりて行かずなりにけり。

今は（ ）、自分でしゃもじを手にとつて、飯を器によそつたのを見て、
いやに思つて行かなくなつてしまった。

（問1）「こそ」が強調する箇所は？ （

）

（問2）現代語訳の空欄補充をしよう。

係助詞の注意すべき用法2

「こそ…已然形、」 ↓ 逆接用法。 「…けれども、」と訳す

（問3）「こそ」がない場合と比較をしよう。

初めこそ心にくくもつくりけれ、

初めは心にくくもつくりけれど、

今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、笥子のうつはものに盛りけるを見て、心うがりて行かずなりにけり。

（問4）前半部分に係り結びが加えられたことにより、男のどんな心情が強調されたのか？

（

2, eについて

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつゞ経る

（問1）「ぞ」が強調する箇所は？

（

（確認）現代語訳を確認しよう。

（訳）あなたが来ようとおっしゃった夜は、毎夜毎夜むなく過ぎてしまったので、
もういまではあてにはしないけれど、それでもあなたのことを恋しく思い続けて
日を過ごしています。

（問2）「ぞ」がない場合と比較しよう。

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつゞ経る

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつゞ経

（問3）係り結びが加えられたことにより、河内の女のどんな心情が強調されたのか？
（

課題1 二重傍線部「本意」の内容を具体的に考えよう

― 昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出て遊びけるを、大人になりにければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども、聞かでないありける。さて、この隣の男のもとより、かくなむ、
筒井筒井筒にかけしまろが丈過ぎにけらしな妹見ざるまに女、返し、
くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき
など言ひ言ひて、つひに本意のごとくあひにけり。

古語「本意」の意味Ⅱ
本来の意志、かねてからの望み

(1) 男の「本意」が現れている箇所を抜き出す。
男はこの女をこそ得めと思ふ。
つまり
女と結婚すること。

係り結びの法則 Ⅱ 意味上の係りで文末を迎え、特定の形で結ぶ。

係助詞		結び
こそ	かやなむぞ	連体形。
：	：	已然形。

係助詞	意味	訳
かや	疑問 反語	…か。 …か、いや…ない。
なむぞこそ	強意	(訳さなくてもよい)

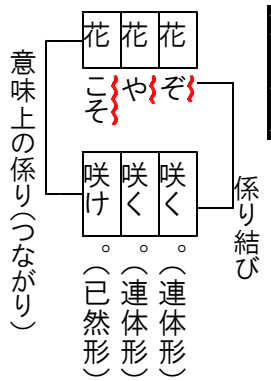
〈通常の文章〉

(訳)

花 咲く。(終止形)

花が咲く。

〈係り結び〉



花が咲く。
花が咲くか(いや、咲かない)。
花が咲く。

係助詞は、上の語が意味の上で係る(つながる)部分で文末(。)を迎えた場合に、結びの形(連体形・已然形)を作る。

～中学校既習事項～

係り結びは、ある事象や行為などに対する、作者や登場人物の感動や疑問の気持ちなどを、より強調する時に用いられる。

男はこの女をこそ得めと思ふ。

↓ 訳

男はこの女をぜひとも得たいと思う。
妻にしたいと思う。

(2) 女の「本意」の強さが現れている箇所を二カ所抜き出す。

① 女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども、聞かでなむありける。
(親の言うことを) 聞かないでいた。

女の「本意」

＝

男と結婚する

こと。

② くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき

女の気持ち

(この男) に髪上げをしてほしい

(反語)

反語・・・強い肯定の心情

疑問・・・疑問・疑いの心情

疑問？ 反語？

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき

(訳) あなたと長さを比べてきた私の振り分け髪も肩より長くなりました。
あなたでなくて誰か(この髪を結い上げましょうか、いいえ、あなたが上げるのです。)

* この「女」はどのような女性か？ ↓

自分の意志を持ち続ける芯の強い女性

～ 平安時代の結婚 ～

親の決めた相手と結婚するのが一般的。

課題2 登場人物の心の動きを読み取ろう

Ⅱ さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるままに、もろともと言ふかひなくてあらむやはとて、河内の国高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、このものと女、あしと思へるけしきもなくて、出だしやりければ、男、異心ありてかかるにやあらむと、思ひ疑ひて、前栽の中に隠れあて、河内へいぬる顔にて見れば、この女いとう化粧じて、うちながめて、

風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

とよみけるを聞きて、限りなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

まれまれの高安に来てみれば、初めこそ心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、笥子のうつはものに盛りけるを見て、心うがりて行かずなりにけり。さりければ、かの女、大和の方を見やりて、

君があたり見つつををらむ生駒山雲な隠しそ雨は降るとも

と言ひて見出だすに、からうじて、大和人、「来む。」と言へり。喜びて待つに、たびたび過ぎぬれば、

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経ると言ひけれど、男住まずなりにけり。

心情Ⅱ（係り結び）に注目！

【係り結び使用箇所】

- a もろともと言ふかひなくてあらむやはとて、
 b 男、異心ありてかかるにやあらむ
 c 風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ
 d 初めこそ心にくくもつくりけれ、
 e 君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつぞ経る

↓ aとeでは、それぞれ「誰の」「どのような」心情を強調しているのだろうか。

aとeをそれぞれ分類しよう

「男」についての記述	「女」についての記述	「河内の女」についての記述
a b d	c	e

↓ ワークシート③に取り組もう

係助詞の注意すべき用法1

a 「や」「か」の文末用法

係助詞本来は文中。

疑問・反語の「や」「か」は文末で使われる場合もある。
文末表現の場合は、係り結びはない。

a・b・cは 疑問 or 反語

ワークシート①での既習事項

疑問⇨疑い・疑問の心情 反語⇨強い肯定の心情

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐべき

(反語)

a もろともに言ふかひなくてあらむやはとて、 ↓ (疑問)

訳 女と一緒に貧乏な状態でいられるだろうか

b 男、異心ありてかかるにやあらむ ↓ (疑問)

訳 男は、女は他の異性に惹かれる心があつて、このようであるのだろうか

c 風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ ↓ (疑問)

訳 風が吹くと沖の白波が立つ、その竜田山を、夜中にあなたは一人で今頃越えているのでしょうか。

『伊勢物語』『筒井筒』ワークシート③

クラス

番号

氏名

登場人物の心の動きと行動推移

「男」についての記述	「大和の女」についての記述	「河内の女」についての記述
a も^もろ^もと^とも^もに^に言^いふ^ふか^かひ^ひな^なく^くて あ^あら^らむ^むや^やは^はと^とて、 ↓②プリ 係り結び意味【疑問】 心情（疑い） その後の行動 河内の女のもとへ 通うようになる。 b 男^お、異^い心^{しん}あ^あり^りて^てか^かか^かる^る に^にや^やあ^あら^らむ^むと ↓②プリ 係り結び意味【疑問】 心情（疑い） その後の行動 出^でか^かけ^けた^た振^ふり^りを^をし^し、庭^{にわ}に 隠^{かく}れ^れて^て女^をの^の様^{よう}子^しを^を見^みる^る。 その後の行動 河内の女のもとへ通わな くなる。 d 初^はめ^めこ^こそ^そ心^{こころ}に^にく^くも^もつ^つく^く り^りけ^けれ、 係り結び意味【強意】 心情（失望）	親^{おや}が^が亡^なく^くな^なる 女の態度 不^ふ快^{かい}な^な様^{よう}子^しも^もな^なく、河^か内^のの^の 女^をの^のも^もと^とへ^へ送^{おく}り^り出^です^す。 化粧 + 風^{かぜ}吹^ふけ^けば^ば沖^{おき}つ^つ白^{しろ}波^{なみ}た^たつ^つた^た山^{やま} 夜^よ半^{はん}に^にや^や君^{きみ}が^が ひ^ひと^とり^り越^こえ^えら^らむ^む ↓②プリ 係り結び意味【疑問】 心情（心配）	奥^{おく}ゆ^ゆか^かしい^い態^{たい}度^ど （予測される）女^をの^の態^{たい}度^ど 変^かわ^わら^らぬ^ぬけ^けな^なげ^げな^な様^{よう}子^し 女^をの^の理^り想^{さう}像^{ざう} 女^をの^の態^{たい}度^ど 気^きを^を許^{ゆる}し、恥^はじ^じら^らい^いの^のな い^い態^{たい}度^ど。 e 君^{きみ}来^きお^おと^と言^いひ^ひし^し夜^よご^ごと^とに 過^あぎ^ぎぬ^ぬれ^れば^ば頼^{たの}ま^まぬ^ぬも^もの^の 恋^こひ^ひつ^つぞ^ぞ経^へる^る 係り結び意味【強意】 心情（喪失のつらさ）

強意の係り結びの働き

「強意の係助詞「ぞ」「なむ」「こそ」の有無により、言いたいことはどう変わるのか」

1, dについて

初めこそ心にくくもつくりけれ、

訳 通い初めの頃は（奥ゆかしく装っていたけれども）、

今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、笥子のうつはものに盛りけるを見て、
心うがりて行かずなりにけり。

今は（油断して）、自分でしゃもじを手にとって、飯を器によそったのを見て、
いやに思っ行かなくなりました。

（問1）「こそ」が強調する箇所は？（初め）

（問2）現代語訳の空欄補充をしよう。

係助詞の注意すべき用法2

「こそ…已然形、」↓逆接用法。「…けれども、」と訳す

（問3）「こそ」がない場合と比較をしよう。

初めこそ心にくくもつくりけれ、

初めは心にくくもつくりけれど、

今はうちとけて、手づからいひがひ取りて、笥子のうつはものに盛りけるを見て、心うがりて行かずなりにけり。

（問4）前半部分に係り結びが加えられたことにより、男のどんな心情が強調されたのか？

（失望）

2, eについて

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつぞ経る

（問1）「ぞ」が強調する箇所は？（恋ひつつ）

（確認）現代語訳を確認しよう。

（訳）あなたが来ようとおっしゃった夜は、毎夜毎夜むなく過ぎてしまったので、
もういまではあてにはしないけれど、それでもあなたのことを恋しく思い続けて
日を過ごしています。

（問2）「ぞ」がない場合と比較しよう。

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつぞ経る

君来むと言ひし夜ごとに過ぎぬれば頼まぬものの恋ひつつ経る

（問3）係り結びが加えられたことにより、河内の女のどんな心情が強調されたのか？

（男を失ってしまったつらさ）